

コウノトリってどんな鳥？

コウノトリ | コウノトリ目 コウノトリ科

コウノトリは、ヨーロッパでは幸せ（赤ちゃん）を運ぶ鳥として親しまれ、日本では国の特別天然記念物および「種の保存法」に指定されていますが、昭和46（1971）年以降、日本で繁殖する野生のコウノトリは絶滅しました（兵庫県豊岡市で約40年に及ぶ人工飼育を経て、平成17（2005）年9月に放鳥され、野生復帰への取り組みが進められています）。

水田や沼などにすみ、魚類や両生類、昆虫などを食べます。松の上などにも留まります。現在は、大陸からまれに冬鳥として渡来します。かつて中筋川にも飛来していた記録があります。

アオサギよりも二回りほど大きく全長1m程度。羽を広げた時には2mほどになります。大きさや羽色がツルに似ており（豊岡では、昔「ツル」と呼ばれていたこともあります）、くちばしが太くて長いことで識別できます。

※参考：高知新聞社（1995）「シリーズ四国の自然博物館 四国の野鳥」、兵庫県立コウノトリの郷公園パンフレット



カタカタ
カタカタ
.....

ワンポイント！
成鳥は鳴きませんが、くちばしでカタカタと音を立てます（クラッタリング）。

つるの雑記帳

第3回「米のブランド化への取り組み」検討会を開催！



地域の基幹産業の一つである農業を守り、ツルのえさ場・ねぐらを維持しようとする目的で実施されてきた、米のブランド化に係る検討会の最終回が、平成24年2月4日に開催されました。



はじめに、前回までの議論を振り返り、地域のみなが共通してイメージできる「四万十川流域の環境を守る」といったような基本コンセプトを定めて取り組んでいくことが決まりました。その後、具体的なネーミングや栽培技術などについて、参加者それぞれが持つ構想を出し合いました。

講師であり、兵庫県豊岡市でブランド化に尽力された西村いつきさんからは、「四万十川をキーワードにしたブランドは世界に通用するものになると思うので、行政も主体的に絡んでブランド認証に係る委員会等を立ち上げて取り組んでいくべきである。手順やノウハウは、豊岡市の事例をぜひ参考にしてほしいし、アドバイスもできる」と、大変心強い言葉をいただきました。

民間・農業者・行政でブランド化に向けた道筋を共有しました。

ツルを見かけたら お願い



四万十川および中筋川流域で見られるツルは野鳥です。非常に用心深く常にあたりを警戒しています。特に光や物音に敏感で、一度飛び立つと遠くに飛び去ってしまい1羽も見られなくなります。自然のままのツルの生活をおびやかさないように、静かに遠くから見守ってください。

セブン-イレブンみどりの基金

一般財団法人セブン-イレブン記念財団 この会報は、2011年度一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成を受け、発行しています。



四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.15 ●発行日／平成24年2月25日 ●発行／四万十つるの里づくりの会
<http://www.shimanto-tsuru.com>

※「四万十つるの里」内のツル類の写真の一部は、澤田佳長氏（野生生物環境研究センター所長）よりご提供いただいております。

コウノトリと共生する 兵庫県豊岡市を視察

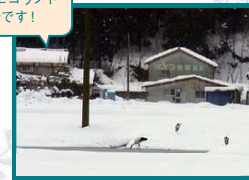
四万十つるの里づくりの会では、中筋川沿いの広大な水田地帯をツルのえさ場・ねぐらとなる湿地環境として守っていこうと、地域の農業との連携を模索しています。

そこで、自然界で一度は絶滅したコウノトリを人工飼育し、野生復帰させる取り組みのなかで、米のブランド化を図り地域活性化へとつなげた兵庫県豊岡市へ、平成24年1月28～29日、会員15名で視察に行ってきました。



外は一面の雪で銀世界。コウノトリづしの室内で講義を受けました

冬でも水を張っている田に飛来する越冬中のコウノトリ。すぐそこにコウノトリがいる。それが豊岡の風景です！



地元の方と記念撮影



積極的に質問するメンバー



商工会議所やパッケージデザインに携わるメンバーは地場産品に興味津々



知りたい！
コウノトリってどんな鳥？



気になる！
豊岡市の取り組みを紹介！